

災害時対応事業報告書

～平成20年度におけるつくば市社会福祉協議会の取り組み～



2009.02.21 訓練会場に集合した地域のみなさん

～ 目 次 ～

| | |
|-----------------------------------|-----|
| 1.はじめに | |
| 2.報告 | |
| 防災ボランティア養成講座 | p3 |
| 災害時要援護者安否確認訓練及び現地災害ボランティアセンター設置訓練 | p6 |
| 3.アンケート集計 | p17 |
| 4.効果と課題 | p21 |
| 5.まとめ | p21 |
| 協力団体一覧 | |

1.はじめに

地震などの災害が発生した場合、つくば市においては「つくば市地域防災計画」のとおり災害対策本部や災害ボランティアセンターを設置することとなります。災害ボランティアセンターの運営については、つくば市社会福祉協議会が積極的な関わりを持ち復興に向けて市民生活の支援を推進してまいります。

本会としては、地域防災訓練を地域住民が主体となつての災害時対応ができる機会と考え、区会役員、民生委員児童委員などの地区役員や福祉関係事業者、市民活動団体、ボランティアなどのご支援ご協力を得ながら取り組んでまいります。

今回、荃崎地区区会の皆様の積極かつ活発なまちづくりに対する取り組み姿勢から、この地域内活動や他分野との密接な交流、更に地区での円滑な情報伝達が優れていることと考え、事業実施モデル地区として選定いたしました。訓練を通じて、改めて災害時要援護者に対し日頃からの見守りの大切さや各区会の連携の必要性など体験いただけたものと考えております。

また、茨城県社会福祉協議会をはじめ、近隣市町村社会福祉協議会、さらに防災科学技術研究所、つくば市関係各課の皆様にもご参加いただき、実施できましたことあらためて御礼申し上げます。

平成 21 年 2 月

社会福祉法人つくば市社会福祉協議会
会長 久保田 尚勇



荃崎地区の多種多様な役割の住民が積極的に参加くださいました。
(2009.02.21 訓練開会式のようす / 社協職員撮影)

2.報告

防災ボランティア養成講座(全3回)

(市受託/地域福祉推進事業:保健福祉部社会福祉課扱)

目的

地域に災害についての行動ノウハウを有する人材を多く養成する。
市民への啓発活動を手伝っていただく。
被災時に災害ボランティアセンタースタッフ、避難所運営スタッフとして活動できる人材を養成する。

内容

地域で暮らす市民が、災害啓発や災害時に自ら率先して地域のために活躍できる人材となるため、つくばで起こりうる災害の特徴や、災害時要援護者支援のあり方、また、住民・専門家・行政・NPOなどが協力して被害想定シナリオをつくりながら、対策を検討する防災まちづくりの方法について学んでいただく。本養成講座受講者を防災ボランティアとして登録した。

| | |
|----|---|
| 主催 | つくば市 |
| 主管 | 社会福祉法人つくば市社会福祉協議会 |
| 講師 | (独)防災科学技術研究所防災システム研究センター つくばコミュニティ放送株式会社 茨城レスキューサポートバイク |
| 協力 | つくば市立荃崎第一小学校 |

第1回 被災時対応と地域の災害を知る

| | |
|----|--|
| 期日 | 平成20年9月21日(日) |
| 会場 | 老人福祉センターとよさと |
| 内容 | 9:00~9:30 オリエンテーション 9:30~12:30 普通救命講習(AED) 指導/つくば市消防本部中央消防署救命係員 12:30~13:30 -休憩- 13:30~14:10 つくば市で起こりえる地震災害について 講師/(独)防災科学技術研究所防災システム研究センター 藤原 広行氏 14:10~15:30 被害想定~シナリオづくり 講師/(独)防災科学技術研究所防災システム研究センター 坪川 博彰氏 15:30~16:20 グループディスカッション 指導/つくばコミュニティ放送株式会社 増田和順氏 茨城レスキューサポートバイクネットワーク 田辺和夫氏 16:20~16:30 まとめ |



第2回 安全・安心マップづくり-みんなでまちあるき

期 日 平成 21 年 2 月 7 日 (土)

会 場 つくば市立荃崎第一小学校体育館他

内 容 10 : 00 ~ 10 : 30 まちあるきの意義と方法
 講師 / つくばコミュニティ放送株式会社
 増田和順氏

10 : 30 ~ 11 : 30 まち歩きチェックポイントの説明及びまち歩き
 指導 / つくばコミュニティ放送株式会社
 増田和順氏
 茨城レスキューサポートバイクネットワーク
 田辺和夫氏

12 : 30 ~ 13 : 00 - 休憩 -

13 : 30 ~ 14 : 00 情報を安全安心マップに ~ 図上訓練・意見交換
 指導 / つくばコミュニティ放送株式会社
 増田和順氏
 茨城レスキューサポートバイクネットワーク
 田辺和夫氏



第3回 実働訓練

(災害時要援護者安否確認訓練及び現地災害ボランティアセンター設置訓練参加)

| | |
|----|---|
| 期日 | 平成21年2月21日(土) |
| 会場 | つくば市立荃崎第一小学校体育館他 |
| 内容 | 09:30~09:50 開会 主催者あいさつ/社会福祉法人つくば市社会福祉協議会副会長 中嶋 忠 来賓あいさつ/つくば市長代理 つくば市保健福祉部長 田川 啓次様 |
| | 09:50~10:00 訓練準備~活動上の諸注意 |
| | 10:00~12:00 訓練 |
| | 12:00~12:25 訓練講評 評者/独立行政法人防災科学技術研究所防災システム研究センター長補 佐 長坂 俊成氏 |
| | 12:25~12:30 閉会 |

詳細は別項に記載



取り組みの効果

つくば市で起こりえる地震災害について、改めて市民に認識していただくことができた。

「まちあるき」による地域確認の重要性を知ることができた。=マップづくりの重要性。

防災上の地域特性を交えた講義及び実技並びに実働訓練を受けていただくことで、地域で活躍できる防災リーダーを育成した。

「災害時要援護者安否確認訓練 及び現地災害ボランティアセンター設置訓練」

目 的

つくば市地域防災計画の趣旨に沿って、初動対応型につくば市総合防災訓練に整合する形でモデル小学校区を選定し、地域住民が主体となる実働訓練を実施する。

災害時要援護者に対する日頃からの見守りの大切さやそのシステムづくりのきっかけづくりとする。

地域の指定避難所となる小学校を校区内各自治会が連携して運営する必要性など、地域防災における諸課題を認識し、「自助、互助、共助について考える機会」としていただく。

| | |
|-----|---|
| 期 日 | 平成 21 年 2 月 21 日 (土) |
| 会 場 | つくば市立荃崎第一小学校体育館他 |
| 進 行 | 09 : 30 ~ 09 : 50 開会 主催者あいさつ / 社会福祉法人つくば市社会福祉協議会副会長 中嶋 忠 来賓あいさつ / つくば市長代理 つくば市保健福祉部長 田川 啓次様 |
| | 09 : 50 ~ 10 : 00 訓練準備 ~ 活動上の諸注意 |
| | 10 : 00 ~ 12 : 00 訓練 |
| | 12 : 00 ~ 12 : 25 訓練講評 評者 / 独立行政法人防災科学技術研究所防災システム研究センター長補佐 長坂 俊成氏 |
| | 12 : 25 ~ 12 : 30 閉会 |

訓練会場及び訓練対象地域

会 場

つくば市立荃崎第一小学校体育館 (高崎 2290)
(駐車場 / 高崎サッカー場駐車場他)





モデル地域
 荃崎第一小学校区



【選定理由】

単一小学校区としては市内有数の広範囲区域であり、被災時想定として遠距離の避難者対応が考えられること。

いわゆる旧住民と新住民のコミュニティが形成されており、コミュニティ毎の生活様式に違いがあること。

牛久市及び龍ヶ崎市との行政界があることから、被災時想定として市外居住

者への対応も考えられること。

旧荳崎町時代から防犯防災に対する意識が高い地域である。防災無線などインフラも整備されていること。

二次避難所として機能する小学校区を対象とすること。

【校区アセスメントデータ】

| | |
|------------|---|
| 校区区会数 | 26 区会、5073 戸 |
| 校区総人口 | 12,154 名 |
| 校区高齢化率 | 19.3% |
| 関係民生委員 | 18 名、主任児童委員 = 1 名 |
| 主な医療機関 | つくば双愛病院、筑波胃腸病院、愛和病院（牛久市） |
| 消 防 | 南消防署（ポンプ車 2、救急車 1）、荳崎分署（ポンプ車 1、救急車 1） |
| 消防団 | 分団数 13 |
| 自主防災組織 | 7 団体（高見原 1～5、城山、西大井） |
| 防災無線設置場所 | 22 箇所 |
| 警察管区 | つくば中央警察署、荳崎地区交番 |
| 活動拠点設置予定施設 | （つくば市地域防災計画より） ・現地連絡所 = 荳崎庁舎、高崎中学校 ・ボランティアセンター地区本部 = 荳崎保健センター ・指定避難所 = 荳崎第一小学校、荳崎中学校 ・予備避難所 = 高見原保育所、高崎幼稚園、城山保育所 ・地区救援物資供給運搬給水拠点 = 荳崎第一小学校、高崎中学校 ・医療救護拠点 = 荳崎保健センター、荳崎第一小学校 ・遺体安置所 = 荳崎高校体育館 |
| 福祉施設 | 介護保険事業所 3 箇所（居宅介護支援除く）、障害者自立支援事業所 3 箇所 |
| シルバークラブ | 10 クラブ、538 名 / H20.4 現在 |
| 障害者数 | 392 名（身体 297 名、知的 54 名、精神 41 名） / H20.4 現在 |

訓練参加者

< 参加者合計 234 名 >

（内訳）

| | | | |
|-------------------|------|-----------------------|------|
| 荳崎地区区会連合会 | 14 名 | つくば市立荳崎第一小学校 | 5 名 |
| 荳崎地区民生委員児童委員連絡協議会 | 24 名 | 茨城県社会福祉協議会 | 2 名 |
| 区民 | 36 名 | 他市町村社会福祉協議会 | 8 名 |
| 荳崎第一小学校 P T A | 4 名 | 防災科学技術研究所 | 1 名 |
| 当事者団体 | 1 名 | つくば市市民生活部生活安全課 | 3 名 |
| 市議会議員 | 1 名 | つくば市保健福祉部社会福祉課 | 2 名 |
| 自主防災組織 | 4 名 | つくば市保健福祉部障害福祉課 | 1 名 |
| 荳崎シルバークラブ連合会 | 9 名 | つくば市教育委員会教育総務課 | 1 名 |
| 要援護登録者 | 42 名 | つくば市教育委員会施設管理課 | 1 名 |
| スポーツ少年団 | 2 名 | つくば市社会福祉協議会理事 | 2 名 |
| ボランティア | 19 名 | つくば市社会福祉協議会理事 | 2 名 |
| つくば中央警察署荳崎交番 | 1 名 | つくば市社会福祉協議会評議員 | 1 名 |
| つくばコミュニティ放送株式会社 | 3 名 | つくば市社会福祉協議会地域福祉活動推進委員 | 4 名 |
| 茨城レスキューサポートバイク | 13 名 | つくば市社会福祉協議会職員 | 30 名 |

訓練項目

災害時要援護者安否確認訓練

事前に災害時要援護者として協力いただいた方の居宅に、災害ボランテ

ィアセンターの指示によりボランティアが二人一組で訪問。要援護者に対して安否確認と家屋の被災状況を確認する。避難希望者を居宅から訓練会場まで随伴する。災害ボランティアセンターに帰着報告するとともに、避難希望者を避難所受付で引渡し、活動完了。

避難所設営訓練

各区長・つくば市・つくば市社協の協働で避難所を開設。住民点呼による避難者名簿の作成。避難場所の整理整頓。衛生上の注意点や健康チェックなどを行う。避難所閉鎖に伴う帰宅者名簿の確認並びに関係資機材の撤収。

災害ボランティアセンター現地本部設置訓練

現地ボランティアニーズの情報収集・ボランティア受付 マッチングボランティア送り出し 活動報告受付の一連の実務訓練を行う。職員緊急招集訓練を同時開催する。県社協・他市町村社協からの応援職員も実務的に配置し、つくば市社協職員との連携訓練も兼ねる。

三つの訓練項目を同会場で同時に実施することで、各訓練項目毎の動きが把握しやすくなり、各訓練項目参加者にも理解しやすくなる。

訓練想定

イントロダクション・・・ 平成 21 年 2 月 21 日（土）午前 4：00 ごろ、茨城県南部を震源とする震度 7 の直下型地震が発生、荃崎地区は停電と断水、全半壊家屋が多数発生したとみられる。午前 7：00 につくば市は災害対策本部を設置、市社会福祉協議会（以下「市社協」）も災害ボランティアセンター（以下「災害 V C」）設置を視野に会長が全職員に出勤を命令し、かつ県社協に応援を要請した・・・。

シナリオあらすじ・・・ 午前 9：00 に社会福祉協議会職員が集合し、災害 V C 設置のための準備とオリエンテーションを行っている、午前 10：00 過ぎにつくば市対策本部から災害 V C 設置要請が入った。すぐに市社協会長が災害 V C 設置を指示し午前 10：30 に荃崎第一小学校で運営を開始した。並行して、あらかじめサイトを使って把握していた要援護者、要介護者の位置情報を基に、市内の防災ボランティアが非難支援や状況確認などを開始。ほどなくして市外の支援ボランティア、他市町村社協が続々と応援に駆けつけた。この時点で電話はふくそうが激しく使えないが、e コミュニティつくばや無線で市民レポーターから続々とニーズ情報が入り対応に追われる。また、ラヂオつくばを通じて F M 放送で刻々と情報が提供される。車椅子の要介護者の保護、緊急物資や支援物資を搬送などするうち、午前 11：00 を過ぎて電話がつながり始め、さらに市内の詳細な情報が把握できるようになり、だんだんと歯車が上手く動き出していく・・・。

写真でみる訓練のようす [シナリオ順 / 抜粋]



09:30 開会



09:35 主催者挨拶

つくば市社会福祉協議会副会長 中嶋 忠より主催者として「この防災訓練を地域住民が主体となつての災害時対応ができる機会と考え、区会役員、民生委員児童委員などの地区役員や福祉関係事業者、市民活動団体、ボランティアなどのご支援ご協力を得ながら取り組んできております。今回、茎崎地区区会の皆様の積極的、活発的な取り組み姿勢から推察しますと、この地域内活動や他分野との密接な交流、更に地区での円滑な情報伝達が優れていることと思い、今日の訓練成果について高くご期待しております。本訓練を通じて、改めて災害時要援護者に対し日頃からの見守りの大切さや各区会の連携の必要性など体験されることと思います。」と挨拶を申し上げます。



09:40 来賓挨拶

つくば市長代理としてつくば市保健福祉部長 田川 啓次様から「災害から市民の方達が身を守り生活復興のためには、常日頃から自助、共助、公助の考えを持ち役割分担や相互の連携が必要かと考えます。この取り組みがつくば市の「総合防災訓練」を補完する事業に位置づけされていると聞き及んでおります。市としましても、「地域住民の繋がり」を重視し、「地域防災」の在り方を模索するに絶好の機会であると考えております。地域の共通課題である「防災」に積極的に取り組もうとする茎崎区民の方々や地区の民生委員児童委員の皆様、またボランティア参加の皆様には、大変なご支援をいただき厚く御礼申し上げます。この訓練が参加者全員の力強いご支援により成功裡に終了できることをご祈念申し上げます。」とご挨拶をいただきました。



09:50 訓練準備～活動上の諸注意

各訓練項目毎に参加者が集合し、市社協職員から説明及び諸注意がありました。



10:00～12:00 訓練

次のシナリオに基づき訓練項目毎に進行しました。

10:00 [シナリオ ID.001] [市災害対策本部 社協本部]

平成 21 年 2 月 21 日 04:00 に発生した震度 7 の地震により午前 7 時ちょうどに災害対策本部が設置されました。災害対策本部長からボランティアセンター設置について要請いたします。また、荃崎第一小学校区では大きな被害が出ている模様です。被災住民が荃崎第一小学校に集まっています。避難所として体育館を確保したので、運営補助を要請します。

10:00 [シナリオ ID.001-2]

こちらは FM84.2MHz ラヂオつくばです。まもなく市内荃崎第一小学校で災害時用援護者安否確認訓練及び現地ボランティアセンター設置訓練がはじまります。ラヂオつくばでは、地域のみなさまの安全・安心な生活のお役にたてるよう、今後も年に数回定期的に災害時臨時放送局訓練放送を行ってまいります。この訓練に伴い本日 10:00 から 12:00 にかけて災害時臨時放送局訓練放送を行います。番組中、随時訓練に伴う情報配信が入りますが、あらかじめご了承くださいませようお願いいたします。

地震情報をお知らせします。本日午前 4 時分頃茨城県南部に震度 7 の地震が発生しました。つくば市の震度は 7 です。火の元に十分注意し、落ち着いて行動して下さい。こちらは FM84.2MHz ラヂオつくば災害時臨時放送局訓練放送です。これは訓練放送です。

FM84.2MHz ラヂオつくばよりお知らせします。ラヂオつくばでは、この地震を受けて、局内に災害情報センターを設置しました。今後、地震や避難に関する情報を随時発信していきます。こちらは FM84.2MHz ラヂオつくば災害時臨時放送局訓練放送です。これは訓練放送です。



現地ラジオ放送局(仮)
訓練会場にはつくばコミュニティ放送株式会社の協力で「ラヂオつくば」
現地放送局が設置されました。

10:05 [シナリオ ID.002]

ただいま、市災害対策本部からボランティアセンター設置要請がありました。職員は速やかにおおきな被害が想定される荃崎第一小学校に必要な資材及び物資を用意し、ボランティアセンターの設置をお願いします。また情報班は近隣市町村及び災害ボランティアへの協力要請をお願いします。

10:10 [シナリオ ID.003] [現地災害ボランティアセンター 社協本部 市災害対策本部]

現地災害ボランティアセンターの開所準備が整いましたので報告します。只今から受付を開始します。



ボランティア受付
現地災害ボランティアセンターが設置され、応援社協職員、市防災ボランティアが協力して受付業務を行いました。

10:15 [シナリオ ID.004]

こちらは FM84.2MHz ラヂオつくば災害時臨時放送局訓練放送です。つくば市災害対策本部からのお知らせです。市では、10 時 05 分に市内高崎地区に避難指示を発令しました。避難経路・場所は図で確認し、落ち着いて避難して下さい。避難時、屋外ではラヂオつくば FM84.2 や避難所の掲示板などから情報収集して下さい。交通情報をお知らせします。地震により、電車は JR、私鉄各線とも全線運行を見合わせています。また、つくば市社会福祉協議会では現地災害ボランティアセンターの運営を開始いたします。荃崎第一小学校体育館でボランティア受付をしておりますので、ボランティアの皆様は受付をお願いいたします。なお、レスキューサポートバイクの受付は体育館横の別テントでおこなっておりますのでお気をつけください。こちらは FM84.2MHz ラヂオつくば災害時臨時放送局訓練放送です。これは訓練放送です。

10:15 [シナリオ ID.005] [現地災害ボランティアセンター 社協本部 市災害対策本部]

避難所の入所準備が整いましたので報告します。只今から受付を開始します。



ボランティア受付
避難所が開設され、地域住民が協力して受付業務を行いました。

10:15[シナリオ ID.006][現地災害ボランティアセンター]

ボランティアセンター内のトイレ、テントの案内表示及び避難所の各種掲示物など今後発生する連絡関連の掲示物の外国語版の翻訳をお願いします。



情報保障ボランティアによる翻訳活動
現地災害ボランティアセンター及び避難所の各種掲示物を要援護者（特に日本語のわからない外国人を想定）向けに翻訳・掲示していただきました。
日本語、英語、韓国語、フランス語に対応



10:20 [シナリオ ID.007]

こちらはレディオつくば災害時臨時放送局訓練放送です。つくば市災害対策本部からのお知らせです。つくば市立荃崎第一小学校で避難所の運営を開始いたします。荃崎第一小学校体育館で入所受付をしておりますので、避難が必要な方は受付をお願いいたします。なお、避難所内は空調がありませんので、防寒対策を充分にして入所してください。こちらはレディオつくば災害時臨時放送局訓練放送です。この放送はFM ラジオの 84.2MHz でもお聞きいただくことができます。これは訓練放送です。

10:20 [シナリオ ID.008][現地災害ボランティアセンター 市災害対策本部]

地域の情報収集をするため、茨城レスキューサポートバイクに偵察を要請しました。また、校区内の各区長及び民生委員児童委員と連絡をとり要援護者の安否について情報収集しています。



茨城レスキューサポートバイクによる偵察・情報収集
バイクの機動性を活かした災害救援ボランティアグループ。全国ネットワークを活かして新潟県中越地震をはじめとして、被災地で活躍しています。

10:20 [シナリオ ID.009][現地災害ボランティアセンター 市災害対策本部]

荃崎第一小学校避難所で、朝から何も食べていない方が多く見受けられますので、食料品を送ってください。また、冷え込みが厳しいため、毛布やストーブなど暖を取れる物資の搬入をお願いします。

10:25 [シナリオ ID.011][IRB 詰所 現地災害ボランティアセンター]

荃崎第一小学校そばの交差点、南に 200m ほど行ったところで道路路肩が陥没しています。位置はこちら（e コミに画像投稿）
荃崎中学校下、東側の稲荷川にかかる橋が崩落しています。通行止めです。
市民ホールくさぎき下、県道の稲荷川にかかる橋が崩落しています。通行止めです。



災害ボランティアセンター情報班
茨城レスキューサポートバイクをはじめとしてボランティアから寄せられる情報をWEBシステム「e コミュニティつくば」に掲載していきます。要援護者情報も掲載しているので秘匿性も担保されています。システムについては（独）防災科学技術研究所防災システム研究センターのご協力をいただきました。



10:30 [シナリオ ID.013]

災害対策本部から複数名の安否確認要請がありましたので、安否確認活動を実施します。ボランティア番号 番と 番の方は活動依頼書と地図を受け取り、要援護者宅へ安否確認に行ってください。

10:35 [シナリオ ID.014] [IRB 詰所 現地災害ボランティアセンター]

自宅のカーポートにいた車椅子の要援護者を発見しました。避難所まで自走が難しい状況なので、避難所の荃崎第一小学校体育館まで、別ボランティアの方が車椅子対応の車で迎えにきてくださるよう手配をお願いします。なお、この地区では水道が断水しているようです。

10:40 [シナリオ ID.015]

職員が福祉移送サービス車輛で車いす利用者の避難支援にあたります。ボランティア番号 番の方は、車輛に同乗し荃崎第一小学校から TSWC-G001 さんまで車椅子の市民の避難支援をお願いします。災害ボランティアから、支援地域で断水しているとの情報が入ってきていますので、飲料水の携行を指示してください。



災害ボランティアセンター「マッチング送り出し」
災害対策本部からの情報を受け、災害ボランティアセンターの「マッチング送り出し班」では、災害ボランティアに情報を伝達しました。



安否確認
本来は一次避難所で地域住民によって行われる「安否確認」ですが、訓練の都合上、災害ボランティアセンターからの活動依頼でボランティアが安否確認を行いました。2人～3人一組となって、要援護者情報が含まれた活動依頼書と災害情報が掲載されたマップが手渡され、安否確認に向かいました。



マップを利用した活動管理
事前にまちあるきで得た情報をマップに落とし込み、訓練に活用しました。併せて、この訓練時のみ要援護者情報も掲載されていました。

10:45 [シナリオ ID.016]

避難所に物資が到着しました。搬入の手伝いをお願いします。物資の種類ごとに仕訳をお願いします。



物資の搬入と仕訳
避難所運営ボランティアと避難住民が協力して、物資を搬入し仕訳を行いました。

11:10 [シナリオ ID.019]

安否確認を受けた要援護者のうち避難希望者が避難所に到着しました。避難所運営支援班は誘導してください。



避難希望者受付
避難希望者が避難所に到着し、避難所運営ボランティアが入所受付を行いました。

11:10 [シナリオ ID.020]

避難所に入所希望の方は受付をお願いします。避難所健康衛生班は保健師による健康チェックを実施してください。



避難所健康衛生班の保健師が健康チェックを行いました。その後、ボランティアが話し相手になって入所のストレスを軽減する活動を行いました。

10:45 [シナリオ ID.017]

こちらは FM84.2MHz ラヂオつくば災害時臨時放送局訓練放送です。つくば市災害対策本部からのお知らせです。気象庁によると 04:00 に発生した震度 7 の地震の余震が続いています。現在確認している市内の被害状況は倒壊家屋 200 戸、半壊家屋 400 戸、死亡 3 名、けが人多数です。今後も震度 5 程度の余震が起きる可能性が高いとのことですので、十分気をつけてください。地震により、市全域において固定電話が不通となっています。携帯電話も非常に繋がりにくい状況となっています。こちらは FM84.2MHz ラヂオつくば災害時臨時放送局訓練放送です。これは訓練放送です。

11:00 [シナリオ ID.017-2]

こちらは FM84.2MHz ラヂオつくばです。ただいま市内荃崎第一小学校で災害時用援護者安否確認訓練及び現地ボランティアセンター設置訓練が行われています。ラヂオつくばでは、この訓練に伴い、地域のみなさまの安全・安心な生活のお役にたてるよう、11:00 から 12:00 にかけて特別番組編成で災害時臨時放送局訓練放送を行います。ここからは訓練放送です。

現在までに入っている市内の情報です。高崎地区の一部では道路が陥没しており、人や自転車は通れますが車は通れそうにありません。また、筑波の急傾斜地で落石が発生しています。土砂災害の危険性がありますので、避難の際は十分に注意して下さい。こちらは FM84.2MHz ラヂオつくば災害時臨時放送局訓練放送です。これは訓練放送です。

11:05 [シナリオ ID.017-3]

こちらは FM84.2MHz ラヂオつくば災害時臨時放送局訓練放送です。つくば市災害対策本部からのお知らせです。荃崎第一小学校避難所に災害救援物資が到着しました。非常食には限りがありますので、1人2食まで配布いたします。また、地震により、水道は市の一部地域で断水しています。復旧の見通しはたっていません。こちらは FM84.2MHz ラヂオつくば災害時臨時放送局です。これは訓練放送です。

11:10 [シナリオ ID.017]

健康衛生班は災害救援物資のうち、非常食で調理が必要な物は、避難所運営支援ボランティアと協力して調理をお願いします。



災害救援物資の配食
つくば市の協力により市災害備蓄品の提供を受けました。非常食（アルファ米）を調理して、避難所運営のボランティアが避難者に配食しました。

11:15 [シナリオ ID.021][避難所 現地災害ボランティアセンター]

荃崎第一小学校避難所です。避難されている高崎地区の住民に赤ちゃんがおり、ミルクを入れるために湯沸しポッドが必要です。手配をお願いします。

11:15 [シナリオ ID.022-1][IRB 詰所 現地災害ボランティアセンター]

城山団地内でガス臭がしていると偵察隊から連絡が入りました。



茨城レスキューサポートバイク(IRB)詰所

被災地の偵察や救援物資の搬送などの活動を取り仕切ります。災害時に有用なアマチュア無線やインターネットなどのITを駆使して情報収集・伝達を行います。



災害ボランティアへの情報伝達

災害ボランティア活動に必要な情報は、入手次第ボランティアに伝えられ、活動の参考にさせていただきました。

11:20 [シナリオ ID.024] [IRB詰所 現地災害ボランティアセンター]

団地の水道機場場にヒビが入っており、大量の水が外に流れ出ています。場所はこちら(GPS情報を投稿)



APRSを利用した現在地情報

茨城レスキューサポートバイクがバイクに自転車位置を発進する装置を積んで、被災地偵察中の情報を災害ボランティアセンターのモニターに表示しました。

11:45 [シナリオ ID.027-1]

こちらはFM84.2MHzラヂオつくば災害時臨時放送局訓練放送です。つくば市災害対策本部からのお知らせです。気象庁によると04:00に発生した震度7の地震の余震が続いています。現在確認している市内の被害状況は倒壊家屋220戸、半壊家屋414戸、死亡9名、けが人多数です。一部の地域で焚き火を行っているようです。今後も震度5程度の余震が起きる可能性が高く、住宅密集地では大変危険ですので、自粛するようお願いいたします。なお、災害ボランティアセンターでは携帯用カイロや毛布の配布を行っています。こちらはFM84.2MHzラヂオつくば災害時臨時放送局訓練放送です。これは訓練放送です。

12:00 [シナリオ ID.028]

つくば市社会福祉協議会です。本日の災害時要援護者安否確認訓練及び現地災害ボランティアセンター設置訓練は全ての過程を終了しました。お疲れ様でした。ご協力いただいた皆様は体育館内にご参集いただけますようお願いいたします。



12:05 訓練講評

オブザーバーとして協力いただいた独立行政法人防災科学技術研究所防災システムセンター 長坂 俊成様は「こうした住民主体の地域防災訓練は国内では沢山行われています。つくば市の今回の訓練は、災害ボランティアセンター設置訓練と避難所運営訓練が同会場で行われ、相互の参加者が顔の見える関係にあったことが評価されます」と、全国で行われている地域防災訓練の事例や今回の訓練の意義、今後の課題などを講評いただきました。



12:30 閉会

当協議会常務理事 志村 宗司より御礼のご挨拶を申し上げ、訓練を終了しました。



事後アンケート

訓練終了後、参加者が自主的にアンケートに記入くださいました。

次項に集計結果を掲載します。

3. アンケート(集計結果)

調査日

平成 21 年 2 月 21 日 (土) 12:30~

調査場所

訓練会場(つくば市立荃崎第一小学校体育館)

実施方法

自筆式

参加者数

204 名(事務局 30 名は除く)

回答者数

58 名(参加者に占める割合 28.4%)

設問 1 今回の訓練でどのような役割でしたか?(をつけてください)

設問 2 今回の訓練で新たに得たものはありますか?(をつけてください)

【参加役割 / 安否確認 回答 / 32 名】

得たものがあった 27 名

(記述)

- 1 団体では独居老人が多くなっているように感じました。
- 2 近隣との普段のお付き合いが重要である。
- 3 救援者(要援護者)の自宅の確認が難しいのでは。
- 4 地域住民のきずなを感じました。
これだけの盛り上がりがあれば災害も怖くない。
- 5 老人の援護の手助けが必要と思った。
- 6 安否確認に行く場合への道順確保。
- 7 指定された名前と表札が違って最初は通り過ぎてしまった。同居の方の名前が小さいことを考えてもいなかったで...
- 8 町内地理に関心をもつこと。
- 9 本当の災害時には地図はつくれないと思う。
- 10 (要援護者が)大変喜んでくれた。
- 11 担当地区を歩くことにより、道路に障害物の多いことを気づいた。
- 12 一人住まいの方の所に行ったので、色々話を聴けた。
- 13 地区に高齢者が多く在宅することが分かった。
- 14 訪問先が留守だったので対応について協議のうえ対処した。

得たものがなかった 2 名

(記述)

- 15 訓練の必要性は認めるが現状の訓練では程度が低すぎる

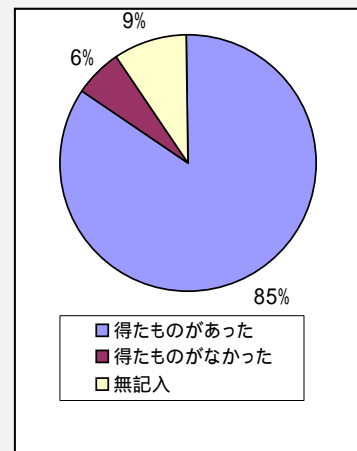
無記入 3 名

【参加役割 / 避難所 回答 / 18 名】

得たものがあった 17 名

(記述)

- 16 避難してきた方に、速やかにいろいろな伝達をすることが出来るように工夫していた点。
- 17 避難所の付加に敷くシュラフ(毛布)一枚が各家の役割をするので、間隔をあけて敷く必要があ



- ること。通路確保の意味からも。
- 18 人間関係の大切さ
 - 19 各班の（地域住民の）担当をあらかじめ決めておく必要があること。
 - 20 避難所設置が初めてだったので、マットの位置やどのような配慮が必要か具体的に知ることができた。
 - 21 個人では出来ないボランティア
 - 22 住民の災害訓練に対する関心の高さ。
 - 23 外国人への対応。
 - 24 災害時の避難所の状況を大まかにも予想する機会となった。

得たものがなかった 0名

無記入 1名

【参加役割 / 災害ボランティアセンター 回答 / 8名】

得たものがあった 8名

（記述）

- 25 いかにも現場が混乱するのか...ということを感じた。
- 26 本災害時にはむずかしいと感じた。
- 27 地域で災害ボランティアセンターを設置するの必要を感じた。

得たものがなかった 0名

【参加役割 / その他 0名】

設問3あなたは今回訓練に参加して、個人としてどのようなことが出来ると思われましたか？

【参加役割 / 安否確認 回答 / 17名】

（記述）

- 1 住民の安否確認と避難の援助
- 2 ボランティアセンターの運営協力はできるかと思われず。
- 3 声をかけられる
- 4 要請があれば何でもできます。
- 5 他の人を思いやること。
- 6 安否確認を含め避難所の支援。
- 7 身体が健康なうちは要望にしたがい何でも。
- 8 安否確認などどうしても人手がいるので進んで参加したいと思います。
- 9 本部との連絡がむずかしいので、区のパイプ役として頑張りたい。
- 10 安否確認及び災害時の瓦礫の撤去作業。
- 11 相互に助け合いの精神で協力できる。
- 12 地区の災害時活動との競合においてどちらを重点を置くか？
- 13 訓練なしで実際はいろいろ問題が出ると思った。
- 14 実際には分からないが、救援に活動できる。
- 15 これからもボランティア活動したいと思います。
- 16 自治会との連携が必要。
- 17 先ずは自分の町内の安否確認を優先したい。

【参加役割 / 避難所 回答 / 10名】

（記述）

- 18 避難してきた方に、食事やお茶を差し上げる。
- 19 健康聞き取りの調査など。
- 20 要援護者との常日頃のふれあい。
- 21 とにかく出来ることには積極的に参加するようにしたい。
- 22 目にしたものは何でも出来ると思われる。
- 23 軽作業
- 24 全体に目が届かなかったので不安だ。
- 25 声かけをする。
- 26 自分に何が出来るか？イザとなったらどうか心配です。
- 27 避難所の設置。
- 28 情報収集 伝達

【参加役割 / 災害ボランティアセンター 回答 / 6 名】

(記述)

- 29 身近な人を助けること。
- 30 通訳。
- 31 まず自分で何が出来るか？積極的にボランティア参加し、リーダーシップを発揮すること。
- 32 地域の方たちへの援助。
- 33 周りの人々を見ること。
- 34 体力がなくなり動くのは出来ないが、事務的なことは手伝いできる。

設問 4 今後、地域の安全・安心を考えていく上で、どのようなことが地域で必要と思いますか？

【参加役割 / 安否確認 回答 / 22 名】

(記述)

- 1 防災避難訓練
- 2 日頃から今回のような訓練を実施しておくことが必要かと思われま。
- 3 各団体との横の繋がりがひつようではないか？
- 4 各地区の首長を決める。
- 5 地域住民の連携。
- 6 訓練なくして実践はできない。
- 7 地域住民の連携。
- 8 各地区毎のしっかりした防災組織の結成と定期的な訓練の実施。
- 9 地域コミュニティの形成（向こう三軒両隣）
- 10 高齢者世帯、独居老人住まいなどを事前に把握しておく必要あり。
- 11 いろいろな機会を通じて災害への備えを提起して、意識付けをしていくことが必要だと思。
- 12 区長さんを中心に地域の役員の設置が望ましいと思う。
- 13 多くの方が災害に対する認識を持ち、常に災害時を想定して避難訓練をしておく。
- 14 最小の単位は各町内会だと思いますので、民生委員の方と町内会の方の連絡を密にされると良いと思います。情報の共有化なども含めて。
- 15 住民が地域活動に積極的に参加すること。
- 16 近隣の顔を知ること。
- 17 連絡網が必要だと思う。
- 18 区の協力が必要だと思います。
- 19 災害時の備えが必要になる。
- 20 日頃のあいさつ
- 21 隣人との付き合いが大切である。
- 22 自治会・自警団・防災等の連携が必要である。

【参加役割 / 避難所 回答 / 15 名】

(記述)

- 23 この様なことを各地域で出来たら良いと思います。500～1000戸ぐらいの単位？でできるといい。
- 24 となり近所とのお付き合いの大切さ
- 25 専門的な知識を持つリーダーが必要だと思った。
- 26 地域の予断の結びつき
- 27 地域のつながり
- 28 地盤の強弱
- 29 弱者を知る。ご近所の安否確認。
- 30 声かけ
- 31 地域の人たちと顔見知りになる機会が必要。
- 32 各班で常に考えておく必要がある。
- 33 速やかな情報交換
- 34 情報の共有
- 35 地域内での連絡
- 36 不安を取り除くための情報開示。繰り返しの案内など。
- 37 大勢の人が集まる上でのコミュニケーションのあり方を考えると、日頃の付き合いが大切と考える。

【参加役割 / 災害ボランティアセンター 回答 / 6 名】

(記述)

- 38 ネットワーク化
- 39 人命第一。避難がやはり最優先事項であると思いますが、動物・ペットも同じ生き物で家族同然である人もいると思うので、ペット(動物)の救命・災害時の対応訓練レクチャーも今後企画してください。
- 40 自治体レベルでも声を掛け合う。
- 41 社協の方へ...ぜひ「災害弱者」の一つとして「被災動物の救援」も今後視野に入れていただきたいです。
- 42 地域でのコミュニケーション。知り合いになっておくこと。
- 43 全体的な意識向上。
- 44 是非、地区で組織化する必要性を感じた。

設問 5 訓練について、意見・要望があれば記述ください。

【参加役割 / 安否確認 回答 / 13 名】

(記述)

- 1 地図が難しかった。
- 2 回を重ねるごとに、実のある訓練になっていると思います。来年も是非参加したいと思います。
- 3 身近な地域での訓練が必要だと思いました。
- 4 訓練とはいえ災害発生した危機感が少ない。
- 5 各班の係員からの指示が聞こえない(マイクを使ってほしい)。ラジオがややうるさい。もっとホワイトボードを活用して、支持を目でわかるようにしてもよいのではないのでしょうか？
- 6 地域を変えて多くの方々が参加できるようにしてもらいたい。
- 7 各行政区長を頭にしてボランティアセンターに連絡しないと、ボランティアセンターから直接各家庭をまわるのは困難か？
- 8 時間がかかり過ぎ
- 9 地図が見えない。
- 10 相手が留守であった。
- 11 伝言ダイヤルを使用したら？
- 12 地図が全くだめ。目印が何も無い。印刷が薄い。
- 13 安否確認に使用した地図が不鮮明であり、その地区に着いても、目的地を探すのに時間がかかった。
- 14 説明のときはマイクを使ってほしい。よく聞こえないところがあった。
- 15 今後、いろいろな役割を訓練することで、災害に対する能力を高めて行きたい。
- 16 (安否確認の)地域担当・割り当ては担当者の居住地がいいと思う。
- 17 本番に際して、訓練の成果が活かされるかどうか、じっくりと考える必要があるのではないか？

【参加役割 / 避難所 10 名】

(記述)

- 18 午前中の実施は良いと思います。
- 19 取材を受けていると知らずに話したが、記者も腕章をつけておいたほうが良いと思った。
- 20 住んでいる地域の人々の状況の把握。
- 21 少なくとも年1回は実施してほしい。
- 22 何回か経験しないと身につかないので、このような訓練をまた受けたいと思います。学校などで中高生に行く、または内容を知らせることも有効ではないかと思います。
- 23 自主的に動くという人が少ない。訓練の繰り返し実施により、意識改革につながる。
- 24 だれの指示に従って良いかわからない。
- 25 もう少し節度のある訓練を希望する。責任者は責任者として統率が必要。
- 26 のんびりしすぎ。緊張感がなかった。

【参加役割 / 災害ボランティアセンター 6 名】

(記述)

- 27 社協の方々も混乱している部分があったので、大変かとは思いますが、まず、指示者が落ち着いてしっかりとした指示を出して下さると、ボランティアも動きやすいです。「協力者は多いのに、なかなかまとまらない現場」というのを感じました。
- 28 毎年やるといいと思う。
- 29 回数を多くしたら。
- 30 組織的に指導願いたい。

4. 効果と課題

地域住民が主体となった「地域住民のための防災訓練」として開催された。

つくば市で起こりえる地震災害について、改めて市民に認識していただくことができた。

「まちあるき」による地域確認の重要性を知ることができた。= マップづくりによる地域資源の共有と課題の再認識。

防災上の地域特性を交えた講義及び実技並びに実働訓練を受けていただくことで、地域で活躍できる防災リーダーを育成した。

訓練参加者のみならず広く地域住民に啓発するための方法を検討する必要性。

地域情報、とくに要援護者情報の共有・活用に関する課題。

5. まとめ

地域住民の共通認識である「安全・安心なまちづくり」は、つくば市の地域福祉を推進する上でも大変に重要なテーマであり、こうした地域防災訓練を地域住民と協働することで開催していくことが、非常に効果的であることがあらためて確認できた。

今後は、地域住民主体の地域防災訓練という概念を維持しながら、つくば市内に活動を広めていくことが大切であり、要援護者を地域で包括的に見守っていくことが、引いては住みやすい地域づくりに結びつくと考え、つくば市社会福祉協議会として次年度以降も継続して実施してまいります。

参加者＜機関＞

【順不同・敬称略】

つくば市荃崎地区区会連合会
つくば市荃崎地区民生委員児童委員連絡協議会
つくば市荃崎地区区民
つくば市立荃崎第一小学校PTA
つくば市荃崎身体障害者福祉協議会
つくば市議会議員
つくば市荃崎地区自主防災組織
つくば市荃崎地区シルバークラブ連合会
つくば市荃崎地区ボランティア連絡会
要援護者登録者
スポーツ少年団
防災ボランティア
つくば中央警察署荃崎交番
つくばコミュニティ放送株式会社
茨城レスキューサポートバイク
つくば市立荃崎第一小学校
独立行政法人防災科学技術研究所
つくば市市民生活部生活安全課
つくば市保健福祉部社会福祉課
つくば市保健福祉部障害福祉課
つくば市教育委員会教育総務課
つくば市教育委員会施設管理課
社会福祉法人つくば市社会福祉協議会理事
社会福祉法人つくば市社会福祉協議会評議員
社会福祉法人つくば市社会福祉協議会地域福祉活動推進委員
社会福祉法人茨城県社会福祉協議会
社会福祉法人美浦村社会福祉協議会
社会福祉法人利根町社会福祉協議会
社会福祉法人常総市社会福祉協議会

ご協力ありがとうございました。